

## 環境白書

エネルギー代として域外に支払われていることが分かった。このため、エネルギーの地産地消による、富の流出防止を試みている。

各地でこうした取り組みが広がれば、温室効果ガスの排出削減や、電力の国内自給に役立つ再生エネの拡大に追い風となる。

ユニークな例もある。中国山地に位置する島根県美郷町では、農作物を荒らすイノシシの駆除に町ぐるみで乗り出し、食肉としてブランド化した。売り上げは、年1000万円を超える見通しという。

環境省は夏までに、全自治体の経済分析データを作成する。自治体が、それぞれの持ち味や課題を知る材料となるのではないか。白書は、地方都市の中心街の衰退が、地域の環境悪化を招く現状も紹介している。

環境対策は、高齢化と人口減少が進む地方で、持続可能な街づくりに役立つ面があるのでないか。白書を環境と経済の調和を考える契機としたい。

## 自然資源を地方創生の一助に

移設で最も影響を受けた周辺住

する」とが求められる。

の8%が、電気や石油などのエネルギー代として域外に支払われていることが分かった。このため、エネルギーの地産地消による、富の流出防止を試みている。

ただ、交通の便が悪く、車で出かける人が多い。二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の排出による環境への負荷は避けられない。売り場面積が広いことから、照明や空調によるCO<sub>2</sub>排出量も多いだろう。

< 2015. 6. 8 >